

防火水槽専用コーティング材



ラスタッフ 2370・2380・2390

■ 技 術 資 料 ■

■ 施 工 要 領 ■



株式会社 アクセス

制定日 2024. 12. 20

改定日 2026. 07. 15

<概要>

ラストップ 2370・2380・2390は、コンクリート製の防火水槽専用コーティング材です。2液性エポキシ樹脂コーティング材で、ラストップ2370は下塗材、2380は素地調整材、2390は上塗材となっております。下塗りのラストップ2370はコンクリート内部に含浸するほか、上塗りとの密着性に優れています。また、乾燥面だけでなく、湿潤面に対しても塗布できます。ラストップ2380は不陸調整・下地調整材として表面を滑らかにするのに使用します。上塗りのラストップ2390は防水性、耐薬品性に優れた塗膜で、施工体を保護します。いずれも低温時（5℃以上）においても翌日には硬化するので、塗装間隔を短縮できます。

<ラインナップ>

商品名	荷姿	色	特長
2370 (下塗材)	9kgセット 主材6kg 硬化材3kg	クリアー	コンクリート内部に浸透する。湿潤面でも塗布可能。上塗りとの密着性が良い。
2380 (素地調整材)	9kgセット 主材6kg 硬化材3kg	白	下塗り塗布後に表面を平滑にする。
2390 (上塗材)	20kgセット 主材16kg 硬化材4kg	ブルー グレー	2370または2380の上塗りとして使用。防水性・耐薬品性に優れる。

<製品の性状>

	ラストップ 2370	
	主 材	硬化材
外 観	無色透明液状	淡褐色透明液状
主 成 分	エポキシ樹脂	変性ポリアミドアミン
配合比（重量比）	2	1
粘 度	100±50 mPa・s	30±15 mPa・s
比 重	1.1（20℃、硬化物）	
標準使用量	200 g/m ²	
可使時間	8時間（20℃）	
指触乾燥時間	60分（20℃）	

	ラストップ 2380	
	主 材	硬化材
外 観	白色パテ状	黒色パテ状
主 成 分	エポキシ樹脂	変性脂肪族ポリアミン
配合比（重量比）	2	1
比 重	1.75±0.10（20℃、硬化物）	
標準使用量	900 g/m ²	
可使時間	40分（20℃）	
半硬化時間	5時間（20℃）	

	ラストップ 2390	
	主 材	硬化材
外 観	淡青色または灰色液状	淡黄色液状
主 成 分	エポキシ樹脂	変性脂肪族ポリアミン
配合比（重量比）	4	1
粘 度	22,000±11,000 mPa・s	2,000±1,000 mPa・s
	10,000 mPa・s（混合後）	
比 重	1.52±0.10	1.08±0.10
	1.43±0.10（硬化物）	
標準使用量	200 g/m ² /回	
標準膜厚	100 μm/回（2回で200 μm）	
塗装回数	2回	
可使時間	30分（20℃）	
半硬化時間	6～7時間（20℃）	

<使用方法>

1. 下地処理

コンクリート、モルタルなどの施工面のレイタンス、ごみ、油分はディスクグラインダー等の動力工具で取り除いて充分乾燥させてください。施工面に浮き出ている水分はウエス等で拭き取り、コンクリート水分量が8%以下であることを確認してください。漏水やクラック、剥離が見られる場合は別途処理を行ってください。

2. 混合

主材と硬化材をよく攪拌して内容物を均一にしてから、所定の割合になるようにはかりで正確に計量して充分に攪拌してください。可使時間以内に使い切れる量を考慮して計量してください。攪拌不足の場合、硬化不良の原因になります。また、溶剤による希釈は不可です。

3. 塗布

ラストップ 2370、2390はハケもしくはローラー、ラストップ 2380はヘラもしくはコテで塗布します。2370は湿潤面でも塗布可能ですが、水が浮いている状況では付着しないので、拭き取ってから塗布してください。2380は施工面の凹凸が埋まるように押し付けて塗布してください。2370、2390は主材・硬化材を混合して5分間程度放置して脱泡させてから塗布します。施工工程は次頁のとおりです。

4. 硬化・養生

硬化中は振動や水分等の影響を受けないようにしてください。塗装間隔の範囲内で表面が硬化していることを確認すれば塗り重ねが可能です。塗装が完了した翌日以降に硬化していることが確認できれば完了となります。

<施工工程>

素地調整材を含む場合

工 程	商品名	標準使用量	膜 厚	塗装方法	塗装回数	塗装間隔
下塗り	2 3 7 0	200g/㎡/回	—	1回	ハケ ローラー	10時間～7日
素地調整材	2 3 8 0	900g/㎡/回	—	1回	ヘラ コテ	16時間～7日
上塗り	2 3 9 0	200g/㎡/回	100μm/回	2回	ハケ ローラー	16時間～7日

素地調整材を含まない場合

	商品名	標準使用量	膜 厚	塗装方法	塗装回数	塗装間隔
下塗り	2 3 7 0	200g/㎡/回	—	1回	ハケ ローラー	10時間～7日
上塗り	2 3 9 0	200g/㎡/回	100μm/回	2回	ハケ ローラー	16時間～7日

※2370は施工体に含浸させることが目的であり、膜厚は設定しておりません。

<試験結果（ラスタップ 2390）>

試験名	試験結果	規格
引張強さ	24.5 N/mm ²	JIS K 7113
曲げ強さ	44.1 N/mm ²	JIS K 7203
圧縮強さ	58.8 N/mm ²	JIS K 7208
硬 さ	HDD 85	JIS K 7215
浸漬試験（水道水）	20℃ 5年 異常なし	任意試験

※これらの数値は試験数値であり、保証値ではありません。

<注意事項>

- 本製品を施工する場合は以下のことに注意してください。
 - 防火水槽に施工する場合は、結露と空気の滞留が課題となります。
 - 2370は結露していても問題ありませんが、2380や2390は硬化中に結露水に触れるとアミブラッシングが発生する可能性があります。
 - アミブラッシングが発生した場合、シンナー（ラスタップ 7110などトルエン系エポキシシンナー）で表面をふき取ってから塗装してください。
 - 基本的に1日1工程となります。2370は硬化が早いですが、溶剤成分が抜け切るまでに5時間程度かかります。その間は揮発したガスが下部に滞留しているので、換気を充分に行ってください。
 - 2380は素地調整時に巣穴が見えて表面に凹凸が多く出た場合、必要となります。
 - 2380に珪砂を入れると砂の粒が巣穴に入るため、よりピンホールがでにくくなります。
 - 2390の塗装翌日に塗膜表面を観察してピンホールを確認した場合、その上から2390

を塗ってつぶしてください。

- ・結露対策として、塗装前の場合、ヒーターで塗装面を温めて水分を飛ばす方法があります。
塗装後では塗膜表面に向けて風を送るなどの方法があります。
- 2. 作業場所は十分に換気し、保護メガネ、マスク、ゴム手袋等の保護具を着用してください。
- 3. 作業服、工具に付着した材料は速やかに除去してください。
- 4. 体質によってかぶれることがありますので、皮膚に付着した場合は直ちに石鹼水で洗い流してください。
- 5. 皮膚障害、呼吸障害が見られるときは、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 6. 基本的には使い切るのが原則ですが、やむを得ず残った場合は容器を密封し、35℃未満の冷暗所に保管してください。

※この技術資料は、予告なく内容を変更する場合がありますのでご了承ください。